

**平成22年度
公共事業評価監視委員会
(事後評価)**

**ほ場整備事業
兵庫北部地区**

(1) 事業概要



大区画化されたほ場

【兵庫北部地区概要】

- 受益面積：A=104.4ha
- 受益戸数：128戸
- 工期：平成9年度～平成16年度
- 総事業費：1,827,222千円
- 事業内容
 - ・区画整理A=104.4ha
 - ・用水路整備（用水ポンプ、パイプライン）
 - ・排水路整備
 - ・農道整備
- ・暗渠排水工A=101.5ha



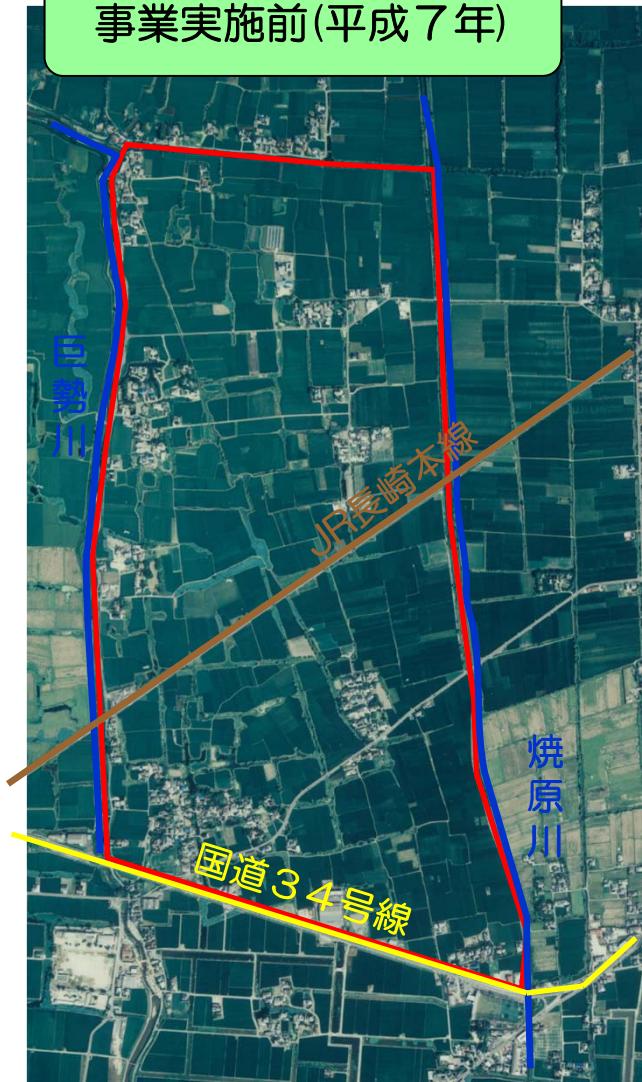
整備された用水施設
（用水ポンプ場、給水栓）



整備された排水路

兵庫北部地区の概要（事業実施前後）

事業実施前(平成7年)



事業実施中(平成12年)



(2) 事業による環境の変化

○交通

- 営農活動
- 通勤、通学
- 集落アクセス
- 安全性の向上



○景観

- 緑の空間の広がり（大豆の作付け面積が拡大）

(3) 事業（農業）を巡る社会経済情勢の変化

- 農業就業人口の減少
- 65歳以上の割合の増加
- 経営規模3ha以上の農家の増加



- 担い手への農地集積



- 経営面積の拡大



- **農業経営の安定化**

・佐賀市の変化(旧佐賀市で比較)

単位:人

	平成7年度	平成17年度	増減
総人口	171,231	※166,772	△ 4,459
農業就業人口	4,117	3,228	△ 889
65歳以上	1,426	1,721	295
高齢化率	34.6%	53.3%	18.7%

【※旧佐賀市のH16.10.1現在の人口を記載】

農業センサス

・経営規模別農家数

単位:戸

	平成7年度	平成17年度	増減
総農家数	2,794	1,857	△ 937
0~1ha	1,214	530	△ 684
1~3ha	1,316	974	△ 342
3~5ha	231	267	36
5ha~	33	86	53

農業センサス

(4) 事業により整備された施設の維持管理状況

○組織

- 「野中を良くする会」
- 「若宮を美しくする会」

○内容

- 施設の点検
- 法面の草刈り
- 道路や水路のゴミ拾い
- 水路の泥あげ等



【法面の草刈り】



【水草除去】

(5) 県民の意見（農家への聞き取り）

○良くなった点

【ほ場の大区画化により】

- 大型機械などによる効率的な営農が可能となった。

【農道の整備により】

- 大型機械の導入が可能となった。
- 幅員が狭く離合もままならず、営農や生活に支障をきたしていたが解消した。

【農地の乾田化により】

- 麦と大豆の反収が上がった。
- 裏作（麦）の作付け面積が増えた。

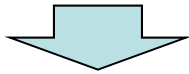
○悪くなった点

【農道の整備により】

- 利便性は向上したが、通勤など地区外の車の通行が増加した。

(6) 事業の効果

事業の直接的効果



- 大型機械の導入が可能
- 大豆・麦の作付けが増加



地区内一面に作付された麦

・作物の作付面積

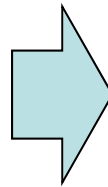
単位:ha

作物名	事業実施前 (平成7年度)	事業実施後 (平成21年度)	増減
水稲	100.0	68.3	△ 31.7
大豆	6.8	33.5	26.7
大麦	81.8	89.4	7.6
なす	1.2	0.2	△ 1.0
たまねぎ等	2.3		△ 2.3
合計	192.1	191.4	△ 0.7

※実施前は事業計画書、実施後は土地改良区調査

(6) 事業の効果

事業の間接的波及効果



- 集落営農の組織化
- 農地の集積

・ 集落営農組織の状況（兵庫北部地区）

事業実施前



事業実施後

○組織

3組織

※集落営農組織の経営面積

・ a営農組合 A = 31 ha

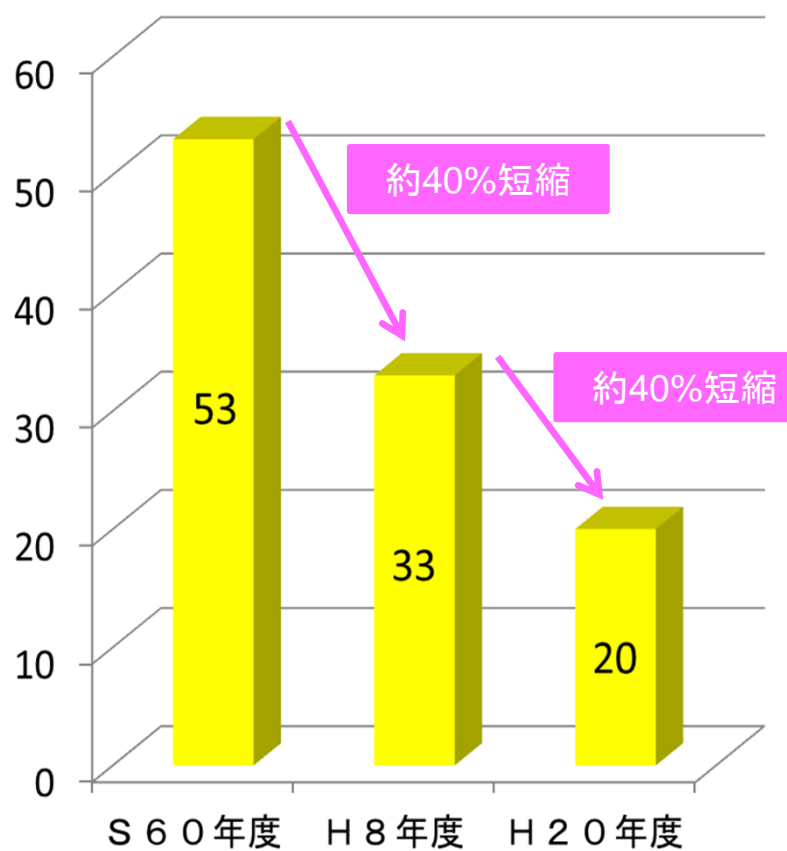
・ b営農組合 A = 33 ha

・ c営農組合 A = 35 ha

〔 地区内に占める割合
99ha ÷ 104.4ha ÷ 9.5% 〕

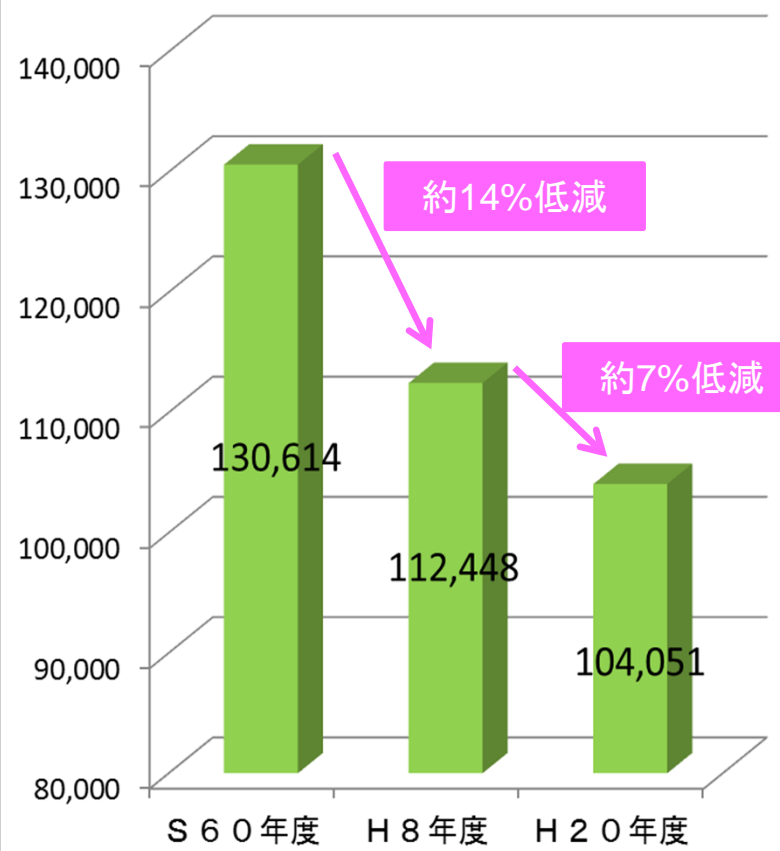
水稲労働時間、生産費の変化

水稲労働時間(時間/10a)



(県平均)

水稲生産費(円/10a)



(県平均)

小麦、大豆の収穫量の変化

・小麦の10a当たり収穫量

単位：k g

	平成8年産	平成21年産	増減
佐賀市	117	387	270
県平均	156	352	196

※農林水産省統計部『作況調査』

※佐賀市の平成8年は合併前、平成21年は合併後のデータ

・大豆の10a当たり収穫量

単位：k g

	平成8年産	平成21年産	増減
佐賀市	235	241	6
県平均	227	238	11

※農林水産省統計部『作況調査』

※佐賀市の平成8年は合併前、平成21年は合併後のデータ

(7) 地域住民との関わり

- 集落保全組織による草花の植栽



- 事業で創設された土地の一部に建つ公民館
- 農家、非農家がふれあう場所



(8) 今後の課題等

○維持管理

現 状

・管理体制の継続

・土地改良区、耕作者及び非農家を含めた地区住民で維持管理を実施

・維持管理費の低減

・施設は整備直後と同等の機能を維持

将 来

・農家人口の減少
・高齢化、混住化の進行

・施設の老朽化
・維持管理費の増大懸念

課 題

・維持管理を、次世代の担い手や新たな地域住民に引き継ぐ

・施設の長寿命化
・更新時期の検討
・施設の機能保全。
・突発的な事故への対応を事前に検討

(9) 新規箇所評価、再評価への反映、改善点等

○改善点

- ・事業計画時点から、地域内外を問わず十分に話し合い、維持管理体制を充実させるよう対応していく。



おわり